

「マッカウス洞窟のヒカリゴケ」リーフレット出版

羅臼のひかりごけ保存会 丸山立一

1.経緯

マッカウス洞窟のヒカリゴケ(*Schistostega pennata*)は、昭和38年に「羅臼のひかりごけ」として、北海道天然記念物に指定され、保護されてきました。しかし、現在はそのヒカリゴケが減少し、わずかに光っている状態になってしまいました。また、洞窟は大規模な崩落の危険があることから、全面立ち入り禁止となっており、このままでは人知れず、ヒカリゴケが消滅してしまう恐れがあります。そこで、知床世界自然遺産としての多様な生物を保全するため、減少したヒカリゴケ群落を再生、教育的・文化的資源として普及・啓発活動を行うことを目的として、ヒカリゴケ保全事業を開始しました。

当団体によるヒカリゴケ保全事業は、平成26年から開始されました。ヒカリゴケに関する保全方法は確立されたものはなく、どのように個体数を増やすか、室内実験と野外実験を行い、広い範囲に移植するにはヒカリゴケの破砕液の散布が適していると考えました。また、この手法を用いて、現地では観察できないヒカリゴケを博物館内の水槽で栽培したり、博物館の屋外で栽培したりするなど身近な場所で観察できるようにしました。平成27年6月には、マッカウス洞窟内にヒカリゴケの破砕液を散布し、同年9月にはヒカリゴケ群落が広がっていることを確認しました。



マッカウス洞窟のヒカリゴケの現状

2.活動内容

本事業では、これらの成果を用いて、羅臼町マッカウス洞窟のヒカリゴケの保全活動について、普及・啓発活動を行うため、子供向けのリーフレットを作成しました。リーフレットについては、専門家による専門的な意見のほか、羅臼町内の学校の先生にも協力をいただき、子供にもわかりやすい資料を作成しました。リーフレットは羅臼町内の小中学校・高校、根室管内の中学校、道東地域の博物館・資料館、国立国会図書館などに配布しました。また、ヒカリゴケの現状と保全活動についてまとめたパネルを作成し、羅臼町郷土資料館に展示しました。さらにヒカリゴケの巡回展として、知床の観光客が多数訪れる羅臼ビジターセンター(4/18~6/18)や道東の



リーフレット表紙

玄関口となっている中標津空港（11/7～11/19）でも、パネルや水槽で育てているヒカリゴケの展示も行いました。

環境教育活動については、羅臼町民に対しては、羅臼町公民館事業への協力として、こまくさ学級での講座を開き、羅臼町のヒカリゴケについての解説と屋内・屋外で展示しているヒカリゴケの観察会を実施しました。さらに身近にあるコケを利用したテラリウム作りの体験学習を行うことにより、ヒカリゴケなどのコケ植物への関心を深められたと思います。

3.まとめ

以上のことより、前田一歩財団 自然環境保全活動助成金により、マッカウス洞窟のヒカリゴケの現状を広く知ってもらう目的は十分に達成できたと考えます。あらためて感謝申し上げます。今後は、コケ自体が分類学上難しい植物のため、リーフレットを活用した出前授業等も企画し、より理解を深められるように努力したいと考えています。

以上



中標津空港での展示



羅臼ビジターセンターでの展示